



北陸農政局 「消費者の部屋」

展示期間：令和3年7月12日（月）～7月30日（金）

展示テーマ：【四季折々の
「農泊」を楽しみませんか。】



【四季折々の「農泊」を楽しみませんか。】①

1 「農泊」とは

○「農泊」とは、農山漁村地域ならではの伝統的な生活体験と地域の人々との交流を楽しみつつ、農家や古民家等での宿泊によって、旅行者にその土地の魅力を味わってもらう**農山漁村滞在型旅行**のこと。

農泊（農山漁村滞在型旅行）



農泊推進体制

法人化された中核法人を中心として、多様な関係者がプレイヤーとして地域協議会に参画し、地域が一丸となって取り組むことを推進。



2 目指すもの

農山漁村地域の所得向上と雇用の増大により地域を持続可能なものとし食の安定的な供給を行う



3 なぜ「農泊」なのか？

① 直売所をつくると... 滞在時間：短 → 「通過型観光」



② 宿泊を加えると... 滞在時間：長 → 「滞在型観光」



【四季折々の「農泊」を楽しみませんか。】②

4 目 標

農泊をビジネスとして実施できる体制を
持った地域を**500地域**創出

- 「観光立国推進基本計画」(H29.3.28閣議決定、抜粋)
農山漁村滞在型旅行をビジネスとして実施できる体制を持った地域を平成32年までに**500地域**創出する
- 「農林水産業・地域の活力創造プラン」(H30.6.1改訂、抜粋)
持続的なビジネスとして実施できる農泊地区を**500地区**創設
- 「未来投資戦略2018」(H30.6.15閣議決定、抜粋)
農山漁村滞在型旅行をビジネスとして実施できる体制を持った地域を平成32年までに**500地域**創出する

↓
国の支援策



H29年度、農山漁村振興交付金の中に
「農泊推進対策」を創設し支援開始

◆何が必要か？（3本柱）

- ① 宿 泊
- ② 食 事
- ③ 体験・交流
(+ 買い物)

「魅力あるモノ・コト」の創出

※ 訪問者のニーズに基づくモノ・コト



◆誰がどうやるのか？

- 地域全体に利益 → 「**地域が一丸**」となってやる
(関係者が参画した地域協議会)
- 持続可能 → 「**ビジネス**」としてやる
(責任が明確な法人が牽引)

5 インバウンドの情勢

インバウンドのニーズと現状

地方部で優位と
思われる農泊
コンテンツが多い

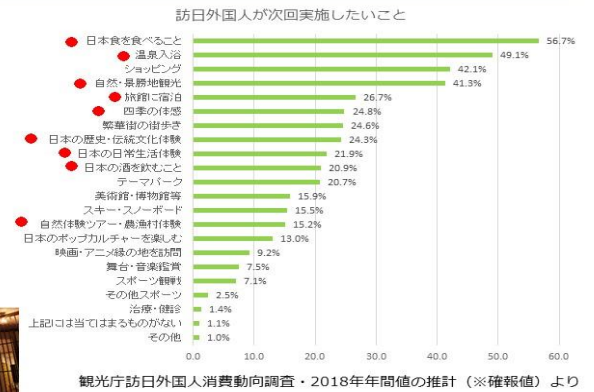


農業体験

自然・
景勝地観光



生活体験



訪日外国人旅行者数は急拡大している



注意) 現在は、コロナ禍の影響で来日を見込むことが難しいですが、ワクチン接種等コロナ禍終息後に期待!

【四季折々の「農泊」を楽しみませんか。】③

農泊地域におけるワーケーションの利用

- 農泊地域において、ワーケーションに関する問い合わせや予約は、複数入ってきている状況
- 休暇を利用して滞在し、テレワークを行いながら食事や体験をするタイプ（休暇型）の他、企業や組織が研修や福利厚生で利用する事例（業務型）もみられる。（今後、利用実績・傾向等について把握していく必要）

ワーケーションの予約状況

○ 令和3年2月の調査結果
農泊地域を対象に10月～1月の状況を調査（有効回答全国130地域）

コロナ禍における農泊地域への問合せと旅行者の需要



具体的な事例

○ 長崎県 雪浦ニューツーリズム協議会 **業務型**
地域活性化のためのアプリ開発に取り組むチーム。協議会が自然体験、郷土料理体験など提供。（4人、2泊、定期的に予約あり）



郷土料理体験

自然体験

○ 福岡県 うきは福富古民家まちづくり協議会 **業務型**
企業が会議と福利厚生の一環で、古民家コワーキング施設（flatformUKIHA）で会議後、古民家宿を利用。余暇で地元産バーベキューやカヌーを体験。（11人、1泊）



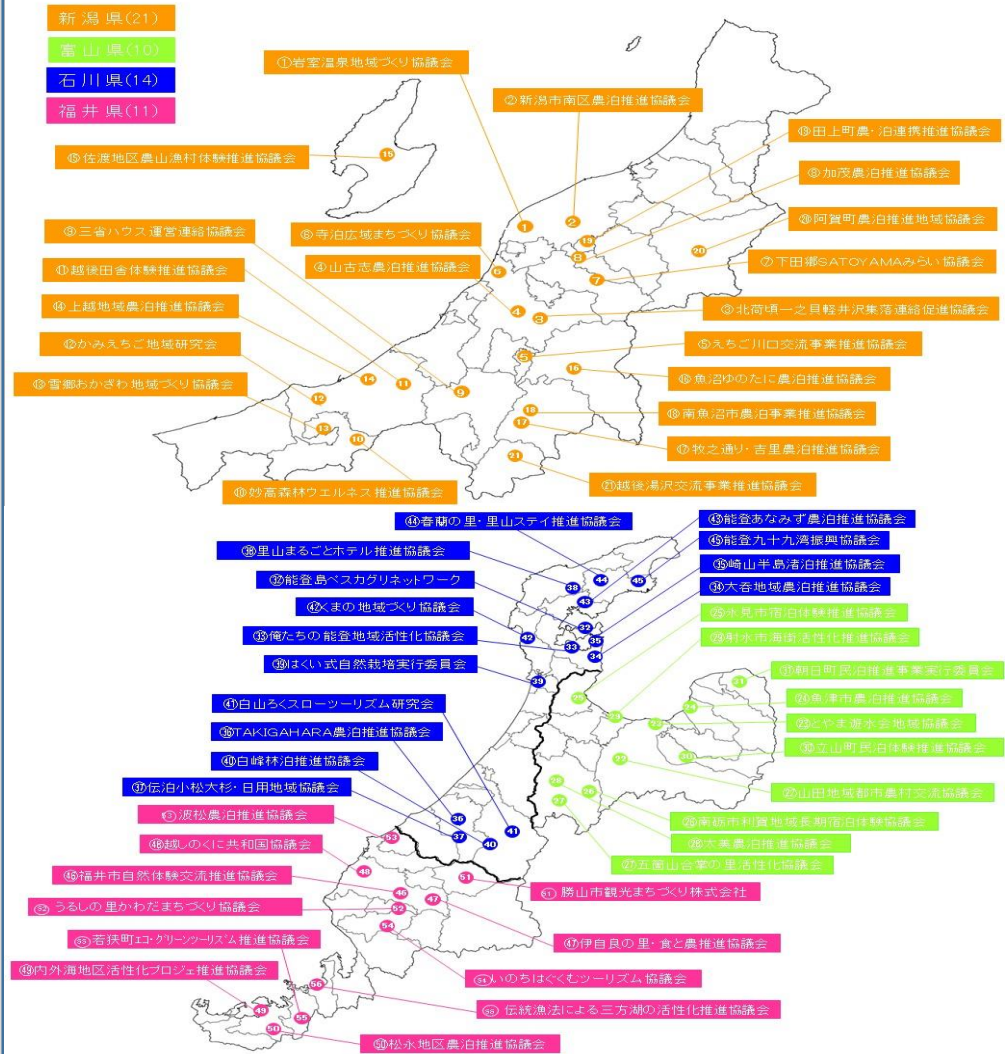
会議状況

地元産バーベキュー

カヌー体験

北陸管内の農泊地域一覧(農山漁村振興交付金(農泊推進対策)採択地域)

R3年3月末現在



【四季折々の「農泊」を楽しみませんか。】④

農山漁村に泊まる



農山漁村を見て楽しむ



【四季折々の「農泊」を楽しみませんか。】⑤

遊ぶ、体験する



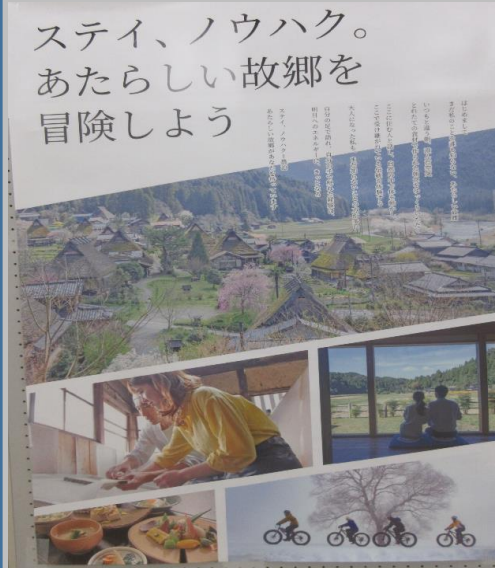
農業や漁業体験。田舎暮らしの体験。
 自然と遊ぶ体験。歴史や文化、自然にふれあう体験。
 農泊地域には、子どもから大人まで楽しめる体験がたくさんある。

地元料理を味わう



採れたての野菜や自慢のお米、新鮮な魚介類を使った料理。
 昔ながらの知恵が詰まった郷土料理。
 農泊地域には四季折々の地元だからこそ味わえる料理がある。

【四季折々の「農泊」を楽しみませんか。】⑥



Do you Know 泊?



【四季折々の「農泊」を楽しみませんか。】⑦

北陸農政局のHPから農泊地域のHPを見ることができます！



①農政局のHPから「農泊推進対策」と記入し、検索



②見たい地域のURLをクリック



③見たい地域のHPを見ることができます。



【四季折々の「農泊」を楽しみませんか。】⑧



優秀賞

Prize for Excellence

認定・特定非営利活動法人 **UNE** (新潟県長岡市)

受賞理由 どぶろく造りも

薬用作物などの栽培だけでなく、食品加工、農家レストラン、農家民宿、どぶろく造りと幅広く手がけています。障害者をはじめとする多様な人びとの雇用を創出し、地域活性化に貢献しています。



概要 12事業に広がる 啓発事業も

2011年4月、障害者地域活動支援センターUNEHAUSを、その後UNEを設立しました。2012年から135㌦の農地で本格的に農業をはじめました。職員7人、障害者や高齢者、生活保護受給者ら8人が、米や野菜の栽培のほか、「福祉市民体験農園Oasis R」の運営など12事業

に取り組んでいます。市内の建設関連会社に依頼し、「特例子会社夢ガーデン」が2012年3月に設立。聴覚障害者1人が就職しました。同社ではヨモギや花ハス栽培、野菜の加工で協働しています。2020年度にその啓発のため農福連携サポーター養成講座を開講。



成果 クロモジ栽培で山林を整備する

- <農林水産業>
 - ・2012年にNPO法人として県内初の農業参入。認定農業者となり、中山間地域の農業の担い手になっています。
 - ・2015年からクロモジの栽培に加え、計画的に山林のクロモジを採取し、医薬品製造会社に出荷しています。
 - ・2017年からはクロモジ茶とクロモジオイルを製品に。その収益化は、山林の整備に役立っています。
 - ・ヨモギの導入は、誰もができる作業を増やしました。条件の悪い農地も活用できています。

- <障害者等>
 - ・多角的な事業によって、障害者や高齢者などそれぞれの特性に応じた作業ができています。
- <地域>
 - ・レストランや民宿の機能があると、地域外からの訪問者やインターン生も利用します。交流機会の増加が、利用者の生きがいにもつながっています。

ノウフク



優秀賞

Prize for Excellence

特定非営利活動法人 **ピアファーム** (福井県あわら市)

受賞理由 直売所も経営

耕作放棄地の再生や、後継者不足で悩む梨園を受け継ぎ、梨とぶどうを栽培しています。直売所を運営することで、障害がある人の働く場所の確保と高工資を実現しています。



概要 加工・輸出で6次産業化を果たす

2002年から坂井北部丘陵地の耕作放棄や梨園の廃業の課題解決と障害者就労の場づくりを目的に挑戦をはじめました。果樹栽培とともに、農産物販売にも力を入れて、高収益化を図っています。2か所の就労継続B型事業所を運営し、直売所とスーパー

マーケット経営しています。梨園では幸水など12品種、10年からは22品種のぶどう栽培を開始。梨のゼリーやジュースを製菓業者と共同開発したり、受託製造したりしています。アジアGAP認証を取得し、ヤマト運輸の支援で東南アジアへ梨やぶどうの販路を拡大しています。



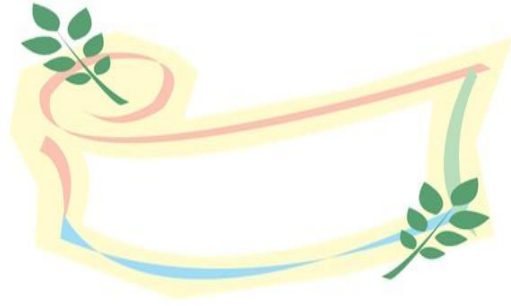
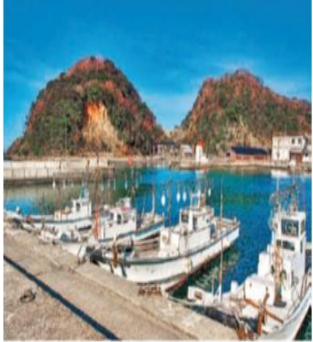
成果 放棄地を再生し、梨園を引き継ぐ

- <農林水産業>
 - ・耕作放棄地の再生によって農地を集約しました。2㌥を再生し、後継ぎのない梨園を引き継ぎました。
 - ・11年9月あわら市の「認定農業者」になりました。
- <障害者等>
 - ・果樹栽培と食品加工、その販売によって、働く場所が確保でき、工資が増えました。

- <地域>
 - ・特産品である梨を受け継ぎ、新たにぶどう栽培に取り組むことで、地域活性化に貢献しています。
 - ・直売所では160の契約農家の農産物や加工品を販売。地産地消と商店街のにぎわいに一役買っています。
 - ・商工会や観光協会と連携して6次産業化、観光化へ踏み出しています。

ノウフク

【四季折々の「農泊」を楽しみませんか。】⑨

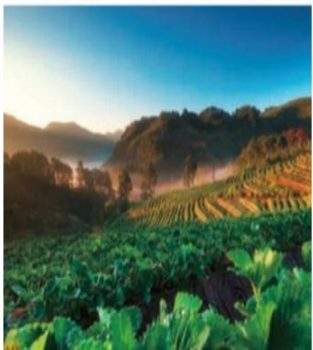


ディスカバー

農山漁村の宝 むらのたから

今回は、農山漁村の活性化、所得向上に取り組んでいるとして選定された、「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」優良事例を紹介しします。

令和2年度に北陸農政局管内では、5団体が選定されましたので、選定団体の取組をご紹介します。



新潟県 あがのし 阿賀野市

全国選定

ビジネス部門

A あがの衆

～地元を愛するひとつのチーム「あがの衆」～

企業との連携

6次産業化

環境保全
- 景観保全

所在地：新潟県阿賀野市山倉1912-1
連絡先：0250-63-8086
URL：<http://aganohimeushi.com/>



阿賀野市の食の匠集団「あがの衆」



隔月開催の飲食店への生産者見学ツアー



あがの風土キャラバン

概要

- 若手の経営者と農家が、それぞれの経営資源を連携することで、お互いの課題解決を図り、地域振興。
- 地元農家等による「あがの風土キャラバン」と連携し、都市住民が参加するイベントにおける地元ブランドの提供や田植え体験等を開催。

成果

- 開発したブランド牛「あがの姫牛」は、コロナ禍においても売上が増加し、5,000万円から1億8,000万円に増加（H28→R1）。
- 県内の飲食店を対象として、あがの姫牛を含めた阿賀野の農業・酪農PRを目的に体験ツアーを実施し、800人が参加（令和元年度）。

【四季折々の「農泊」を楽しみませんか。】⑩

富山県 魚津市

全国選定

コミュニティ部門

B 小菅沼・ヤギの杜

～「コキア(ほうき草)の灯りプロジェクト」～

環境保全
・景観保全

食育教育

農林漁業・農村文化体験

所在地：富山県魚津市小菅沼1122番地コラボルーム
連絡先：090-3297-7215
URL：http://yaginomori.com/



稲作アート田



ハーブの利用方法等の説明を受ける参加者



にんにくを植付け次年農につなぐ

概要

- 少子高齢化・過疎化により耕作放棄地が増加し、集落の存続が不安視されていた中、原野化していた棚田を復元し作物を栽培。
- メンバー、農村サポーター等の参加で、作物の作付け・収穫体験や稲作アート等を行い、交流を促進。

成果

- 耕作放棄地を解消してコキアやハーブ等の作付けなどで有効活用。その面積は1.2haから3.3haに増加(H27→R1)。
- 作付け・収穫、藍染め体験やほうき作りなどのイベントを開催。交流・体験参加者は150人から800人に増加(H27→R1)。

福井県 勝山市

全国選定

コミュニティ部門

C 小原ECOプロジェクト

～再生古民家を拠点とした交流～

農泊

環境保全
・景観保全

農林漁業・農村文化体験

所在地：福井県勝山市北谷町小原
連絡先：0779-88-1517
URL：https://www.ohara-eco.com/



福井工大生による伝統的古民家の修復再生活動



国際ワークランディアの棚田保全・農作業支援



希少種ミチノクフクジュソウ保全活動

概要

- 小原集落を拠点とし、都市住民との交流による地域活性化、自然資源の保全・保護等を目的に活動。
- 明治時代以降に建築された県内唯一の建築様式を取り入れた古民家を福井工業大学の学生と協力して修復。

成果

- 過去5年間、毎年1,300人以上(令和元年度：1,350人)が地域に来訪しており、エコツアーには毎年300人以上(令和元年度：320人)が参加。
- 地域に生息する絶滅危惧種のミチノクフクジュソウの保全活動には、NPO関係者や小学生など毎年130人以上が参加。

【四季折々の「農泊」を楽しみませんか。】 ⑪

新潟県 新発田市

全国選定

個人部門

こやなぎしげる
D 小柳 繁さん

～農村はいのちのテーマパーク！～

鳥獣被害防止

農林漁業・農村文化体験

環境保全
・景観保全

所在地：新潟県新発田市上三光793-3（上三光農村環境保全・清流の会）
連絡先：090-5434-3185
URL：https://ja-jp.facebook.com/kamisanko/



集会場前で撮った元気のいい上三光集落の皆さん(本人:右上)



田植え体験の前に撮った一般の参加者



耕作放棄地で栽培した地元産蕎麦を楽しむ

概要

- 地域資源を宝と捉え農業体験活動に取り組み、耕作放棄地の有効利用、獣害対策、集落再生と地域活性化を目指す。
- GISを活用した集落環境診断など、集落再生に向けた様々な取組を実施。

成果

- 田植えや稲刈り体験の他、柿酢作り、正月飾りなど集落資源を活用したイベントには、約200人が参加（令和元年度）。
- ピオトープへの再生などにより、耕作放棄地の解消面積は、0.4haから4.5haに年々増加（H27→R1）。

石川県 内灘町

全国選定

個人部門

かさま れいこ
E 笠間 令子さん

～農業・福祉・医療の架け橋になる！～

農福連携

食育教育

高齢者の活躍

所在地：石川県内灘町湖西85
連絡先：komatsunanako@kasamanouen.jp
URL：https://www.kasamanouen.jp/



農園従業員と施設外就労の障がい者との写真(本人:前列中央)



地域の小学生が、毎年農業見学に来園



農福連携の一環で行う、小松菜の収穫作業

概要

- 農業の高齢化を農福連携で補うことで、農業の発展及び地域の活性化に貢献し、障がい者の施設外就労を受入れ共生社会を実現。
- 農福連携として年間6施設と関わり、収穫物の6次産業化や小中学生等への食育も実践。

成果

- 障がい者や高齢者が活躍できる場を提供しつつ生産量も増やし、農福連携の委託料は40万円から153万円に増加（H29→R1）。
- 石川県農福連携促進アドバイザーとしてマッチングに関わっており、県内のマッチング数は、9件から50件に増加（H29→R1）。